

平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 ヤマト・インダストリー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 杉浦 大助
 (J A S D A Q ・ コード 7886)
 問合せ先責任者 取締役管理本部統括 茂木 久男
 (T E L 03-3834-3111)

営業外費用・特別利益(損失)の発生ならびに連結業績予想値と実績値との差異、通期個別業績と

前期実績との差異に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 13 日に公表した平成 29 年 3 月期(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)の連結業績予想値と比較して、本日公表の実績値において差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

あわせて、通期個別業績については、前期実績値との対比において差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、営業外費用及び特別利益(損失)を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値と実績値との差異および個別業績と前期実績値との差異

(1) 連結業績(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回予想 (A)	15,500	280	240	190	円 銭 18.90
実 績 (B)	13,952	344	157	289	28.85
増減額 (B-A)	△1,548	64	△83	99	—
増 減 率 (%)	△10.0	22.9	△34.6	52.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	14,953	387	214	72	7.17

差異が生じた理由

国内で主力取扱商品の住設機器や物流機器製品、アミューズメント等の売上が大幅減少したことにより、売上高は前回予想を下回りました。利益面では、為替差損を計上したことにより経常利益は前回予想を下回りましたが、原価低減及び採算面の見直しに取り組み、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を上回ることになりました。

(2) 個別業績 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績 (A)	8,477	12	43	△82	円 銭 △8.18
実績 (B)	6,582	△72	△21	△102	△10.22
増減額 (B-A)	△1,895	△84	△64	△20	—
増減率 (%)	△22.4	—	—	—	—

差異が生じた理由

主力取扱商品の住設機器や物流機器製品、アミューズメント等の売上が大幅減少したことにより、売上高は前期実績を下回りました。利益面につきましても、売上高の落ち込みをカバーできず、営業利益、経常利益、当期純利益共前期実績を下回りました。

2. 営業外費用 (為替差損) の計上について

主に海外子会社間 (香港、シンセン) の連結相殺消去を実施する際に発生する為替の差額とフィリピンにおいて子会社取引通貨 (米ドル) のペソ高の影響により為替差損 152,439 千円を計上することになりました。

3. 特別利益の計上について

当連結会計年度に、当社グループの経営戦略の一つである国内事業の再構築の中において、株式会社ハイモールドの株式取得 (子会社化) を行ったことに伴う特別利益「負ののれん」を 286,190 千円計上することになりました。

4. 個別財務諸表の特別損失の計上について

個別財務諸表において、保有する関係会社株式が、簿価に比べ実質価額が著しく下落している為関係会社株式評価損 69,491 千円を計上することになりました。

なお、関係会社株式評価損の計上につきましては、個別財務諸表には影響を与えますが、連結財務諸表には、影響がございません。

以上